

令和4年度 自己評価表（最終評価:案）

鳥取県立米子西高等学校

中長期目標 (学校ビジョン)	多様な価値観を尊重し、主体的に生きる力を育み、持続可能な地域を創造する人材の育成を図る。	今年度の 重点目標	1 主体的に取り組む態度・思考力・実践力の育成 2 他者を認め、人とながする力の育成 3 地域を知り、地域に参画、寄与しようとする力の育成 4 働き方改革の推進
-------------------	--	--------------	---

年 度 当 初					評 価 結 果 2月(最終評価)		
評価項目	評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
1 主体的に取り組む 態度、思考力の育成	授業改革の推進	各教科ごとにアクティブ・ラーニング推進月間を設定し、研究授業、授業研究会を実施している。1年次生中心にChromebookの活用を推進する必要がある。生徒アンケートの結果では意欲的に学習に取り組んでいると答えた生徒は90.6%であった。	・授業研究会の質的向上とICTの活用を推進し、授業スキルの向上を図り、主体的・意欲的に学びに取り組んでいると答える生徒が90%以上になる。 ・Chromebookを活用した授業が実施されている。	・課題解決学習の推進を図り、Chromebook等の活用を促進するため、活用法紹介通信の発行や職員研修・校内での授業公開等を実施する。また、このことを教員の端末利用や電子黒板利用促進に繋げる。(R3：89.5%→R4：90%) ・授業アンケートを実施し、自らの授業を振り返り、授業力の向上を図る。	・1年次生では、意欲的に学習に取り組んでいると答えた生徒は93%あった。 ・1年次生では、朝の連絡やその他の情報共有を日常的にClassroomで発信した。 ・コロナ感染拡大でリモート授業や生徒が対面かリモートを選ぶハイブリット授業を実施したところ、リモート選択者が多かった。 ・授業での活用頻度はまだ高いものの、アクティブラーニング推進研究授業で、授業の中でのChromebook活用事例を研修できた。	B	・ICTの授業利用を効果的に活用するために、教科内の情報共有を推進する。 ・ハイブリッド授業では、教材の持ち帰り、リモート参加者の指定方法、双方向の授業参加などの徹底等ルール作りを行う。 ・アクティブラーニング推進研究授業を継続し、効果的なChromebook活用法を教員間で共有できる機会を作る。 ・生徒の創造性や論理的思考力を養うための研修会等を開催する。
	みらいチャレンジ活動の充実・発展	みらいチャレンジ活動も6年を経過した。自分の問題として課題を設定したり、フィールドワークを実施したりするグループも徐々に増えてきたが、まだ調べ学習に終わるものも多い。	・地域の資源を活用した多様な教育活動をととして、主体的に活動できる力が身につく。	・ハイレベル講座を1月に開催し、「思考力・判断力・表現力」の強化を図る。 ・グループ学習やフィールドワーク等を積極的に導入し、課題解決学習の充実を図る。 ・環境の変化に対応できるよう、活動をリモートで行えるよう準備を整える。	・1年次後半から取り組めるよう年間スケジュールを作成し、グループ活動を中心に他者と意欲的に意見交換するなど、成果を上げた。 ・2年次生での夏休休業中に事業所訪問、大学研究室訪問を通じて課題を明確にし、2学期の探究活動につなげた。 ・2年次生のマニュアル『課題研究メソッド』がやや難解だった。 ・教員の中に自主的なみらいチャレンジ活動充実に向けての研修グループなどもできた。 ・3年次生では進路志望別に活動し、志望の確認につながるなど成果を上げた。	B	・2年次では地域にでかけの機会を確保するため授業変更を行い、半日程度校外に出やすい日を作る。 ・ハイレベル講座を継続し、プレゼンの効果的な発表方法の習得を図る。 ・事業所訪問等の経験を通し、課題解決学習を深堀りするよう担当教員との連携を密にする。
	学習習慣の定着	家庭学習時間調査結果によれば、1日の学習時間が9月調査では1年140分、2年81分、3年164分となっており、学年によって差がある。	・「学習記録」を実施し、学習習慣定着に役立たせる教員の指導が容易に行えるようになる。	・学習記録に基づいた生徒面談を実施し、効果的な個別指導を行う。 ・教科面談シートを活用し、成績不振者への指導を行う。 ・Classroomを活用し、生徒が主体的に学習できる環境を研究する。	・6→9月の家庭学習時間調査の結果は、1年次97.5→114.6分、2年次120.5→142.2分、3年次127.3→141.2分であった。 ・成績不振生徒(のべ47名)へ、教科面談シートを使って面談を行った。 ・学習記録表の集計をもとに、懇談等で客観的な数値に基づき指導でき、学習習慣確立の一助となった。 ・感染症等の出席停止等によりリズムがつかめない生徒もいた。	C	・課題を課すことだけでなく、生徒が自主的に学習できるような声掛けや働きかけを、学校全体として取り組んでいく。 ・学習記録などをもとに生徒面談を行い、個々の生徒に合わせた学習指導、進路指導を行う。 ・学習時間調査は手書きとフォームとを併用を実施する。 ・日常的に学習に対する強い動機付けを行っていく。
	進路指導の充実	国公立大学現役合格者数が64名・難関私立大現役合格者16名であり、目標を達成できた。	・国公立大学現役合格者60名 ・難関私立大学現役合格20名	・総合型・学校推薦型選抜入試に対応できるようプレゼンテーションやグループディスカッション力が身につくよう指導する。 ・進路ガイダンスの充実を図り、生徒へ早期に動機付けをする。 ・小論文指導等を含め、全職員で取り組む。	・国公立大学総合型・学校推薦型選抜の合格者21名。 ・国公立大学現役合格者数が、61名・難関私立大学現役合格者17名であり、目標を達成できた。 ・進路講演会は学年進路の意見等も踏まえ内容を依頼し実施した。 ・総合型、推薦入試に出願する生徒のため、多くの時間を割いて教科の学習が不十分になった者もいた。 ・小論文指導・面接指導を全教職員で取り組む体制が維持できている。 ・3年次生は総合的な探究の時間に、2年次に作成した志望理由書を活用して4つの進路希望グループに分け、特に総合・学校推薦型入試においてはグループディスカッションの練習に早めに取り組んだ。	A	・小論文指導・面接指導は現行体制を維持し、進路ガイダンスは同様な形式で実施する。 ・本人にどの入試方法が向いているのかをよく見極めさせ、安易な受験方法にならないように指導していく。 ・総合型・学校推薦型入試の取り組みが遅く、指示を待っている生徒がいた。企画推進部と進路指導部が連携を深めてプレゼンテーションやグループディスカッションに早期に取り組めるようにする。
2 他者を認め、人とながする力の育成	基本的生活習慣の確立	真面目な生徒が多く、年間の遅刻回数が1回以下の生徒の割合は90%である。自己肯定感の高まりを感じる生徒が57%程度である。	・年間の遅刻回数が1回以下の生徒の割合が90%以上。 ・自己肯定感の高まりを感じる生徒が70%。	・基本的生活習慣が学校生活を送る上で大切であることを認識させ、様々な場面において自主的に行動できるよう働きかけを行う。 ・情報モラル・リテラシーの指導を継続し、トラブル防止に努める。 ・生徒面談を活用し、生徒の意欲を喚起する取り組みを充実させる。 ・褒める指導を中心に、達成感を感じられる取り組みを展開する。	・年間1回までの遅刻回数の生徒は全校で85%であった。 ・挨拶やルールを遵守するなどの基本的生活習慣が確立している生徒は多く、清掃活動等については概ね良好である。 ・スマホ依存・ゲーム依存の生徒で学習と生活に支障をきたす生徒もいる。 ・自己肯定感の高まりを感じる生徒は68%であった。	B	・スマホの使用に関し、生活アンケートを通して使用における意識づけにする。 ・学校生活を送る上で基本的生活習慣の大切さを意識させ、様々な場面において自主的に行動できるように働きかける。
	部活動の奨励	多くの生徒が部活動に所属し、活発に活動しているが、学業との両立に苦慮している生徒もいる。令和3年度は新型コロナウイルス感染症の拡大で影響を受けたものの、運動部全国・中国大会23競技、文化部全国大会5部門が出場した。	・運動部全国・中国大会20競技以上、文化部全国大会5部門以上出場 ・人前で発表する経験が得られる。	・本校部活動方針の枠組みの中で、効率的な部活動運営と生徒の主体的な取組を促進させる。 ・部活動と学業との両立ができるように、生徒個人の状況を把握しながら、部活動指導を行う。 ・新型コロナウイルス感染症対策を徹底し、効率よく意欲的な活動ができるように計画を立てる。 ・部活動の場を保证する。	・運動部全国・中国大会以上21競技、文化部全国大会6部門出場。 ・1年次生は、積極的に部活動に励んでいる生徒が多く見られた一方、早い段階で退部した生徒が多かった。 ・全体として、コロナの影響もあり十分な活動ができなかった。 ・学業との両立ができていないような生徒も見受けられる。	C	・部活動が継続して実施できるよう支援する。 ・各部署が連携して、学業と部活動の両立できない生徒の把握と指導に努める。 ・新型コロナウイルス感染症対策を徹底し、効率よく意欲的な活動ができるように計画を立てる。
	社会人講師の活用	社会人講師活用事業や家庭科・公民科の授業、総合的な探究の時間で実施している。	・社会人講師から多様な考え方や生き方、最先端の技術等を学ぶことで、社会の一員となる意識が身につく。	・人権教育・主権者教育・キャリア教育等幅広く社会人講師を活用し、豊かな心の育成、望ましい人間関係の構築、社会に参画する態度の育成を図る。 ・新型コロナウイルス感染症対策で、直接講演ができない場合でもリモートで対応できるよう計画する。	・卒業生や、社会人の講話から、将来を具体的に考えることができた。人権教育講演会で人権学習を充実させることができた。 ・社会人講話では、7月に11名の講師で開催した。 ・コミュニケーショントレーニング、ストレスマネジメントや性に関する指導講演会を実施し、自分自身を振り返る機会を得た。	B	・大学生3・4年次生の講師数をオンラインを活用して増やし、大学の学びについて情報を得る機会を作る。 ・社会人講師とも共通理解をして、講演会後の学習につながる指導計画を立案し、事後の指導に活かす。
3 地域を知り、地域に参画、寄与しようとする力の育成	地域資源を活用した教育活動の推進	地域資源の活用と積極的な地域連携を推進するために、令和元年度に米子市と「ふるさと教育における連携に関する協定」を締結した。	・みらいチャレンジ活動において、年間5回の連携を図り、地域理解が深まる。	・米子市と連携を密にし、円滑な探究活動を実施する。 ・課題テーマの提供、地域資源の紹介・接続、研究活動に係る指導助言、評価等について、米子市と連携し、探究活動の充実を図る。 ・ループリック評価表を充実するため、生徒の意見を反映させて探究活動に取り組むように促す。 ・みらいチャレンジ活動の期間を広げ、充実を図る。	・探究学習で、職場や大学に直接出向くなど、イベントを企画、運営して効果を上げた。 ・2年探究において、米子市役所職員のサポートを受けて探究活動を進めることができた。また、事業所訪問として、多くのグループが米子市役所を訪問するなど、連携を深めた。	A	・1年次の探究活動においても米子市と連携し、探究活動の充実を図る。 ・今後もさらに地域の事業への参加の呼びかけを実施し、学校以外での出会いや学びの場を提供する。
	学校の魅力・特色の情報発信	文化部が協働し、文化部総合芸術祭「翠燦く」を開催し、地域に本校の魅力を発信している。(令和3年度は新型コロナウイルス感染予防のため中止)	・地域に情報を発信するとともに、地域を理解し、社会に貢献する態度が身につく。	・社会環境の変化に順応した発表方法を工夫し、学校情報の効果的な発信を行う。 ・ホームページに動画を掲載する。	・動画掲載が少なく、学校のアピールが少なかった。	C	・「翠燦く」など、学校行事を録画配信できるようにする。 ・部活動の成績や大会報告を積極的にホームページに掲載する。
4 働き方改革の推進	時間外業務時間の削減	部活動の指導時間や教材研究、分掌業務等で、時間外業務を削減できない教員もあった。	・時間外業務時間月45時間、年間360時間を超える勤務者の解消。	・「鳥取県立米子西高等学校部活動に係る方針」を遵守する。 ・行事、会議の精選によって業務の効率化を図る。 ・各分掌の業務内容の見直しを図る。	・A I 採点を取り入れて業務を軽減し、採点後の授業充実に成果を上げている。 ・行事、会議の精選によって業務の効率化を図る。 ・時間外勤務超過者は減少してきているが、部活動に由来する超過勤務者が固定化されている。	C	・A I 採点を効果的に活用していく。 ・月に時間外勤務が30時間を超えることがない部活動計画の提出と実践を求める。

評価基準 A：十分達成 B：概ね達成 C：変化の兆し D：まだ不十分 E：目標・方策の見直し
【100%】 【80%程度】 【60%程度】 【40%程度】 【30%以下】